

宮古島市総合博物館収蔵資料目録  
— 歴史資料編 —

2013 年

宮古島市総合博物館

## 目録発刊によせて

台風銀座と呼ばれ、宮古島の厳しい自然条件の中、宮古の各地域で守り抜かれてきた貴重な文化財や民具等を収集、保管、展示することを目的として、1979（昭和 54）年、宮古島市総合博物館の前身である「平良市歴史民俗資料館」が開設しました。そして、1989（平成元）年 11 月には、この歴史民俗資料館の資料に自然史資料を加えた「平良市総合博物館」が開館し、2005（平成 17）年の市町村合併に伴い、名称も「宮古島市総合博物館」に改称されました。そして、1989 年の開館から 25 年が経過した現在でも、市民の皆様や島内外の皆様からのご寄贈・ご寄託もあり、旧市町村から受け継がれてきた貴重な資料が收藏されております。

当館は、「宮古の自然と風土」をメインテーマに、「歴史・民俗・自然科学・美術工芸」の 4 部門に関わる調査研究、資料収集、展示、保存、教育普及活動を展開してきましたが、その基礎となる多くの収蔵資料の整理とその目録作成は、開館以来の重要な課題でした。

今回の目録作成に際し、資料の保存や保管方法についてもさることながら、資料の受入時の正確な記録と整理がいかに重要であるかを改めて痛感いたしました。中には、情報が明確でない資料もありますが、これらを含めて目録化することで、研究活動や学習の場で活用され、新たな価値が生まれることと期待します。

本目録では、これまで当館へ寄贈、寄託された資料や、収集、採取した歴史資料が 1640 件、5864 点収録されています。これらの資料は、主に使用されていた年代ごとに区分して整理しており、古いもので宮古の先史時代・無土器期の遺跡から出土したシャコガイ製の貝斧から、新しい資料として、本土復帰前のパスポートや宮古島市町村合併の際に、調印式で使用した万年筆など、その時代を象徴するような資料をみることができます。

今回の発刊で、多くの方々、特に宮古島市民の皆様に、資料を通して宮古の歴史に対する理解を深め、新たな発見や興味を深める機会にさせていただければと思います。そして、本目録がこれからの博物館活動の糧になり、学習の場で活用され、研究活動においても役立つ情報を提供することができたら幸いに存じます。

末尾になりましたが、本目録の刊行にあたりご協力をいただきました皆様と、歴史資料を寄贈・寄託していただきました皆様に心から感謝申し上げます。

尚、この歴史資料編については、沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）を活用して作成いたしました。

宮古島市総合博物館  
館長 下里 典子

## 凡 例

1. 本書に記載されている資料は、宮古島市総合博物館に展示・収蔵の歴史資料である。

### 2. 分類番号について

(1) 各資料は、それが主に使用されていた年代ごとに分類し、H1～H6 までの分類記号と受入順による登録番号で整理した。ただし、受入日が不明の場合はその限りではない。

(2) 使用されていた年代が不明の場合、その内容によって分類した。また、書籍は発行年をもとに分類した。

(3) 分類は以下の通りである。

H1・・・考古資料

H2・・・古琉球資料 1317～1608 年（該当資料なし）

H3・・・近世資料 1609<sup>\*1</sup>～1878 年

H4・・・近代資料 I 1879<sup>\*2</sup>～1931. 9. 17

H5・・・近代資料 II 1931. 9. 18<sup>\*3</sup>～1945. 8. 15<sup>\*4</sup>（十五年戦争）

H6・・・戦後～現代 1945. 8. 16～

H0・・・分類不明

<sup>\*1</sup>1609 年 薩摩藩琉球侵攻 <sup>\*2</sup>1879 年 廃藩置県

<sup>\*3</sup>1931. 9. 18 満州事変 <sup>\*4</sup>1945. 8. 15 太平洋戦争終結

(4) 使用年代や寄贈者等、資料についての情報が不明なもの、不確実なものは明確な情報のみを記載した。また年代ごとの分類ができないものや不詳のものは分類せず、「H0」（分類不明）としてまとめた。

(5) H2 古琉球時代の資料については、旧家資料として、『宮古島市総合博物館図録 第一集 旧家資料編一』（2012 年）に掲載されている。

### 3. 資料名について

(1) 資料名の後の（ ）は、当該資料について簡略に内容を補足したものである。

(2) 判読不明の文字は■で表した。

### 4. 寸法・規格について

寸法・規格の単位に g(グラム) や紙の規格 (A 判、B 判) 等の表示がない場合、単位はすべてセンチメートルである。また、計測部を省略して○○×○○ (×○○) と記してある場合は縦寸法×横寸法(×奥行きまたは高さ) である。

### 5. 登録年について

登録年は資料を整理し、台帳に登録した年であり、必ずしも受入日ではない。

### 6. 提供者について

受理次第が採集の場合、提供者は採集者となる。

## 7. 考古資料について

- (1) 考古資料の中で、「住屋遺跡出土品」は『住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告』（1983年 平良市教育委員会）において報告されている。
- (2) 考古資料については、一部当館開館以前に旧平良市に寄贈されたものがあり、採集地、採集年月日が明記されていないため、資料名のみでの整理となった。
- (3) 考古資料の提供者名は、資料に記載されていた名称に従った。尚、「旧宮古図書館」は「琉球政府立宮古図書館」であると推測される。

## 8. 古文書及び図書資料について

- (1) 古文書及び図書資料の複写は登録博物館登録時の整理に依るものであり、その際に付与された番号によって整理されているため、分類番号の[H(1~6)]は付さない。
- (2) 古文書・図書資料における「写し」は手書きにより写されたもの、「複写」はコピーを表す。
- (3) 古文書・図書資料以外の図書資料は『』で括って表した。（一部資料を除く）

## 9. 中村十作資料について

中村十作の資料は、仲宗根将二（1994）「史料紹介：故横内扶沖縄県属遺品「中村十作関係資料目録」（抄）について」『平良市総合博物館紀要 第一号』平良市総合博物館 1p. 89-95. を参考に整理した。

## 10. H5 資料について

H5 の生活用具の資料名については、資料登録時の整理に従い、方言名のみを記載した。尚、備考欄に標準名を記載した。分類についても登録時の整理に従った。

## 11. 當間本店資料について

- (1) 當間本店とは市場通りで商いをしていた沖縄本島からの寄留商人である。
- (2) 当館では寄留商人に関する資料を歴史資料として収集する方針をとっている。そのため、當間本店資料の中に民俗資料や図書資料が含まれているが、すべて歴史資料として登録した。

## 資料数

分類	H1 考古資料	古文書・ 図書資料	H3 近世資料	H4 近代資料 I	H5 近代資料 II	H6 戦後～ 現代資料	H0 分類不明	合計
件数	350	180	10	128	433	457	82	1640
点数	2073	202	13	364	987	1924	301	5864

## 目 次

目録発刊によせて

凡例

1. 図版 ..... (1)

2. 収蔵資料目録

H 1 考古資料	.....	1
古文書・図書資料	.....	15
H 3 近世資料	.....	23
H 4 近代資料 I	.....	24
H 5 近代資料 II	.....	30
H 6 戦後～現代資料	.....	50
H 0 分類不明	.....	70

索引 ..... 74

## 主な収蔵資料



シャコガイ製貝斧

資料番号:H1-29

貝斧とは、貝殻の一部を加工し斧状に仕上げたもので、シャコガイを素材として製作されたものをシャコガイ製貝斧という。シャコガイ製貝斧は、宮古・八重山諸島の先史時代無土器期の遺跡から多数出土しており、この時代の特徴といえる。また、オセアニア地域やフィリピンにも広く分布している。

III 考古資料



シャコガイ製貝斧  
資料番号:H1-30



石斧  
資料番号:H1-34



石斧  
資料番号:H1-36



シャコガイ製貝斧  
資料番号:H1-62



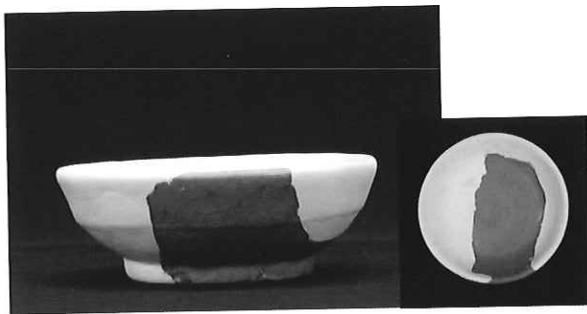
シャコガイ製貝斧  
資料番号:H1-65



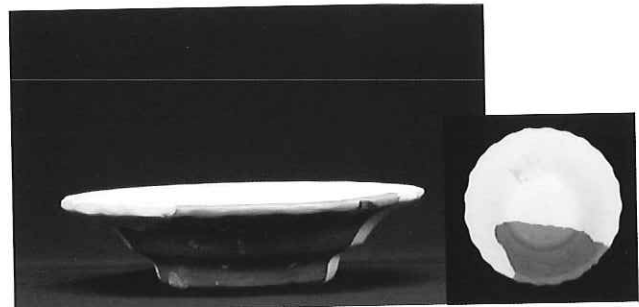
スイジガイ製利器  
資料番号:H1-67



壺形土器  
資料番号:H1-26



青磁皿  
資料番号:H1-20



青磁皿  
資料番号:H1-22



浅鉢形土器  
資料番号:H1-23



染付碗  
資料番号:H1-149





黒朝（クルチョー） 素材：芭蕉  
資料番号:H3-6

黒朝（クルチョー）とは、琉球王府時代の礼装の時の表衣である。袍<sup>ほう</sup>の一つで、三司官以下諸士が着用した。黒朝とは、黒の朝衣の意で、藍袍とも書く。色は、藍で何度も染めるため濃い紺で黒色に近い。返襟で袂下が短く、前・後幅とも同幅である。衽<sup>わきみ</sup>下がりが短く広袖で脇は脇スビ（襠<sup>まち</sup>）がついて縫い合わされている。

（参考：沖縄大百科事典刊行事務局編 1983年『沖縄大百科事典 上巻』 沖縄タイムス社 p.988）



独乙商船救難並建碑顛末書

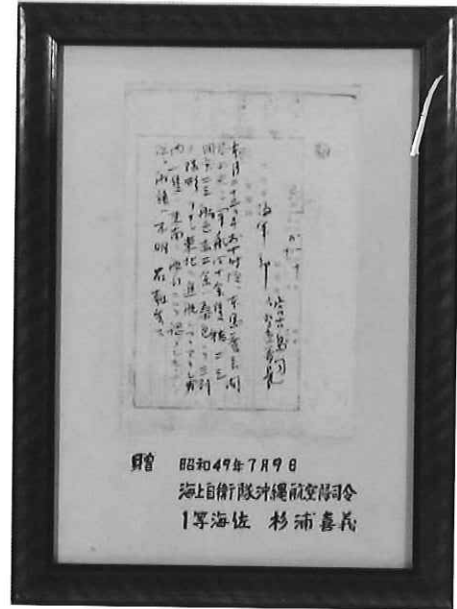
資料番号:H3-10

1873(明治6)年、ドイツの商船ロベルトソン号が航行中に台風に遭遇し、宮国沖で座礁した。これを知った宮古島の島民たちは必死の覚悟で船員8名を救助した。34日間彼らを厚遇し、官船一隻を貸与してドイツに帰国させた。このロベルトソン号乗員の救助と手厚い待遇についてはドイツ帝国の新聞にて報道され、皇帝ウィルヘルム一世は1876(明治9)年、宮古に軍艦を派遣し感謝の碑を建立させた。

本資料は、ドイツ商船ロベルトソン号の救難と感謝の碑建立の顛末書である。



久松五勇士の写真（複写）  
資料番号:H4-6



久松五勇士の電文（複写）  
資料番号:H4-5

久松五勇士とは、日露戦争中、敵艦発見の知らせをもって宮古から八重山までサバニ（材木で造られた沖縄を代表する伝統的な漁船）で渡った5人の若者のことである。

1905(明治38)年5月25日、宮古島へ航行中の帆船が、ロシアのバルチック艦隊らしき船団を発見し、宮古島島司へ急いで連絡をした。それを受けた島司は字松原の垣花善を呼び出し、ことの急を告げるとともに、無線電信施設のある石垣島への急使を命じた。垣花善は自ら先頭に立ち、松原の垣花清（善の弟）、與那覇蒲、與那覇松（蒲の弟）、字久貝の與那覇蒲らとともにサバニを漕ぎ、約128.7kmも離れた石垣島無線局に行き、電文を打った。

（参考：沖縄大百科事典刊行事務局編 1983年『沖縄大百科事典 下巻』沖縄タイムス社 p.294）

資料（左）の写真は、前列左から與那覇蒲、與那覇松、垣花清、與那覇蒲、故垣花善の長男清、後列左から平良町収入役池間昌増、宮古支庁長明知延佳である。

資料（右）は、久松五勇士が打電した電文の複写である。



宮古上布

資料番号:H4-113

宮古上布は、苧麻繊維を原料とする麻織物である。1637年に貢納布に定められて以来、琉球王府の管理体制の下でその製織技術は大きく発展してきた。

その製法は手績み・括り・染め・図案・洗濯・ぬき（補修）という分業制度の形が残されており、それぞれの専門分野に技術者がいて長年の経験によって培われた高度な技術が保持され、なかでも特に上布の命ともいふべき手績みの繊維（糸）づくりは極めて優れた技術といわれている。1978(昭和53)年に下記指定要件でもって重要無形文化財に指定された。

指定要件

- [1] 名称 宮古上布
  - [2] 指定年月日 1978(昭和53)年4月26日
  - [3] 指定要件
    - ①すべて苧麻を手紡ぎした糸を使用すること
    - ②縞模様をつける場合は、伝統的なてゆいによる技法又は手くりによること
    - ③染色は純正植物染であること
    - ④手織りであること
    - ⑤洗濯（仕上げ加工）の場合は、木槌による手打を行い使用する糊は、天然の材料を用いて調整すること
- (参考：宮古上布保持団 2010年 『宮古上布～その手技～』 p.2)

本資料は、寄贈者の曾祖母が嫁（寄贈者の祖母）に贈るために東京の呉服店で購入したもの



宮古島區劃漁業出願ニ関スル重要書類  
(明治 43・44 年)  
資料番号:H4-15



中村十作の写真 (複写)  
資料番号:H4-3

中村十作は、宮古島において重税であった人頭税を西里蒲、平良真牛、城間正安らとともに廃止する運動を起こした人物であり、人頭税廃止運動の後には、奄美大島で実際に真珠養殖を行い一定の成功を収めたが、太平洋戦争の勃発により経営は行き詰まり、晩年は不遇であったといわれている。

(参考：宮古島市史編さん委員会 2013 年『宮古島市史 第一巻 通史編：みやこの歴史』宮古島市教育委員会 p. 249～253)

資料(左)は、中村十作ゆかりの人物から、宮古出身で中村十作研究の著書(『<sup>うぶゆつんあやぶに</sup>大世積綾舟一人頭税廃止と黒真珠に賭けた中村十作の生涯』)をもつ山内玄三郎夫妻に託されたもの。夫妻から旧平良市総合博物館に寄贈された。

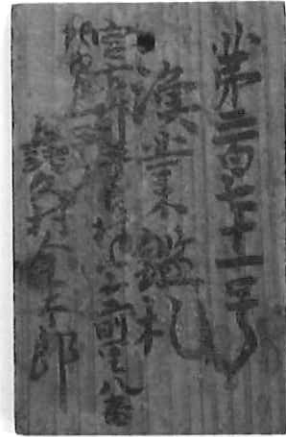
当館所蔵の資料からは、人頭税廃止運動の後、真珠養殖に奔走した中村十作の動向をうかがうことができる。



城間正安の写真（複写）  
資料番号:H4-4



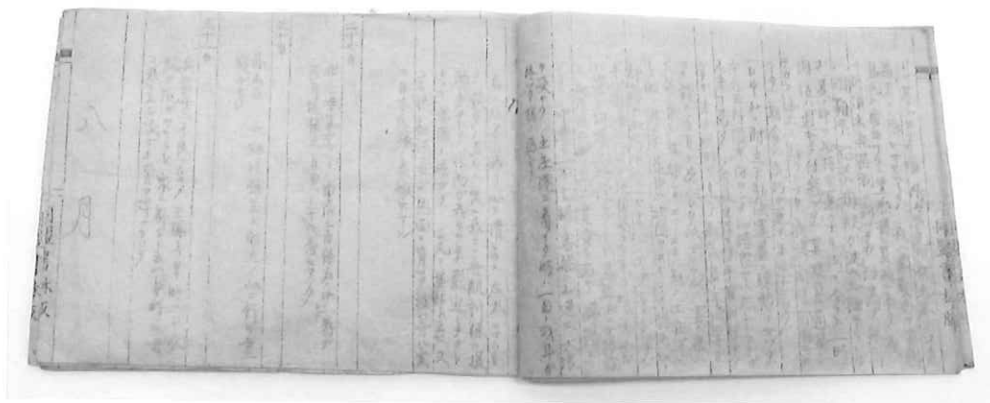
漁業鑑札 第二百七十一号  
資料番号:H4-86



国民新聞第一號外  
資料番号:H4-47



メダル付き懐中時計  
資料番号:H5-291



陸軍海上挺進隊「中尾メモ」  
資料番号:H5-125

陸軍海上挺進隊「中尾メモ」とは、元陸軍海上挺進第4大隊の隊員である中尾藤雄氏が太平洋戦争中の宮古島で決死の想いを込めて記した日誌のことである。特殊なる部隊の存在、活動状況、戦闘事実、他の守備隊との関係、島の人との協力関係などが記されている。



軍服（上着）  
資料番号:H5-224



海軍中尉第二種軍装（上着）  
資料番号:H5-217



千人針  
資料番号:H5-177

この千人針には五銭と十銭が縫い付けられており、「五銭は死線（四銭）を越える、十銭は苦戦（九銭）を越える」という祈りが込められている。



日の丸寄せ書き  
資料番号:H5-221



旧日本陸軍装備品  
資料番号:H5-95





木箱電話機  
資料番号:H5-204



大日本国防婦人會たすき  
資料番号:H5-258



生命を助けるビラ  
資料番号:H5-358



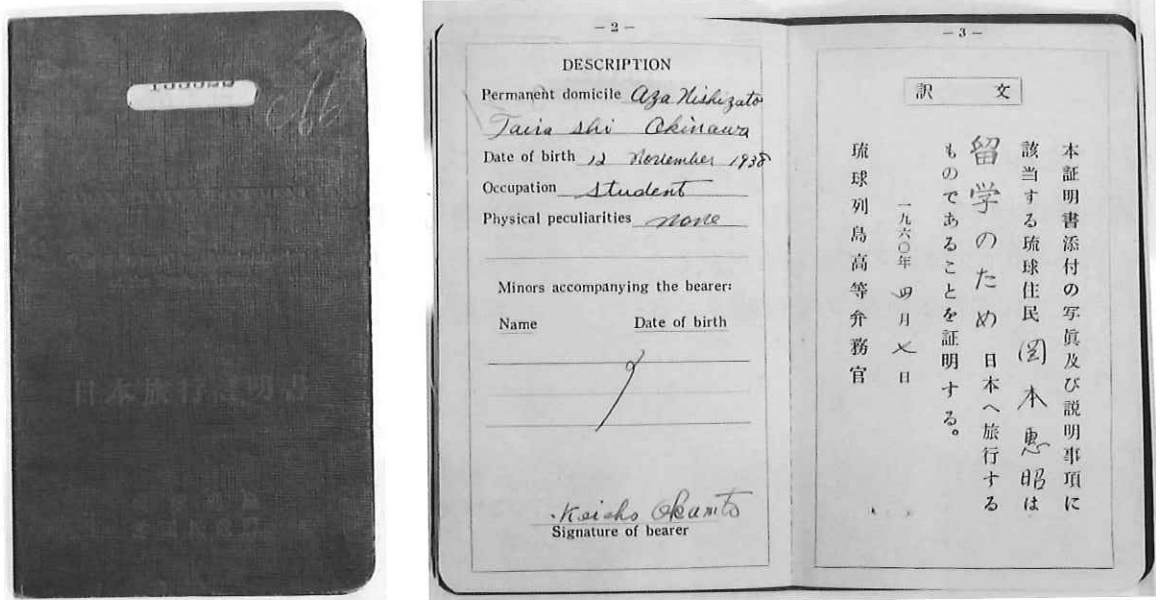
衣料切符第一種  
資料番号:H5-238



大東亜戦争軍票 (フィリピン方面)  
改造ほ号:10ペソ  
資料番号:H5-381



軍用手票 乙号:拾圓  
資料番号:H5-384



パスポート

資料番号:H6-94

米国統治下の沖縄で発行された旅行証明書。本土の大学へ進学する際にも、留学として扱われるためパスポートが必要だった。1972(昭和47)年の本土復帰まで使用された。

※本資料は個人情報を含みますが、寄贈者の承諾を得て掲載しています。

H6 戦後～現代



親子ラジオ

資料番号:H6-62

親子ラジオ(1952年ごろから普及したラジオ共同聴取施設)の受信器



水タンク

資料番号:H6-386

米軍戦闘機の燃料タンクを加工して水おけとして利用



B円軍票 拾銭・五圓・百圓

資料番号:H6-444、447、450



停船許可証

資料番号:H6-96

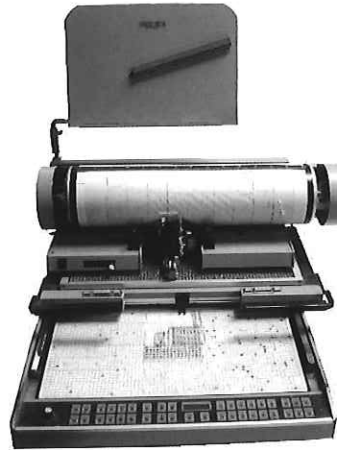


祥雲寺から見た宮古神社の写真

資料番号:H6-352



郵便ポスト  
資料番号:H6-3



和文タイプライター  
資料番号:H6-389



沖縄祖国復帰記念 金杯  
資料番号:H6-119



復帰記念メダル  
資料番号:H6-26



宮古島市町村合併調印式使用万年筆  
資料番号:H6-273



たばこパッケージ  
資料番号:H6-216、217、218、219

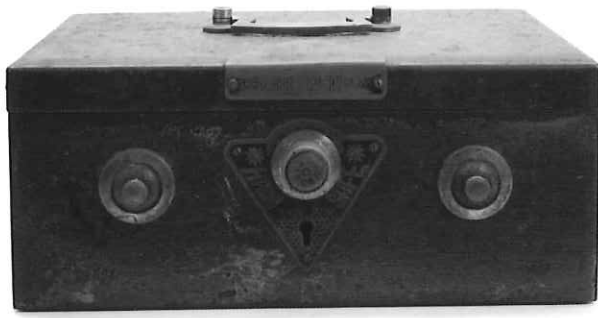


手回し式洗濯機

資料番号:H0-44

日本で開発され、1957(昭和 32)年に発売された。当時、電気洗濯機は大変高価だったため、洗濯は洗濯板での手洗いが主流であった。しかしその後電気洗濯機が急激に安くなり、この手回し式洗濯機はあまり普及しなかった。

使い方は熱い湯(40~80度)と洗剤(粉末石けん)を投入して攪拌してから洗濯物を入れてハンドルをぐるぐる回す。湯の温度でタンク内の空気が膨張し、洗剤を含んだ湯が圧力で繊維の内部まで浸透し汚れを分解するという仕組みであった。長袖シャツなら3枚、シーツなら1枚は洗うことができた。



金庫

資料番号:H0-19



ハエ取り瓶

資料番号:H0-52



岡持弁当箱

資料番号:H0-7



軽便剃刀

資料番号:H0-21



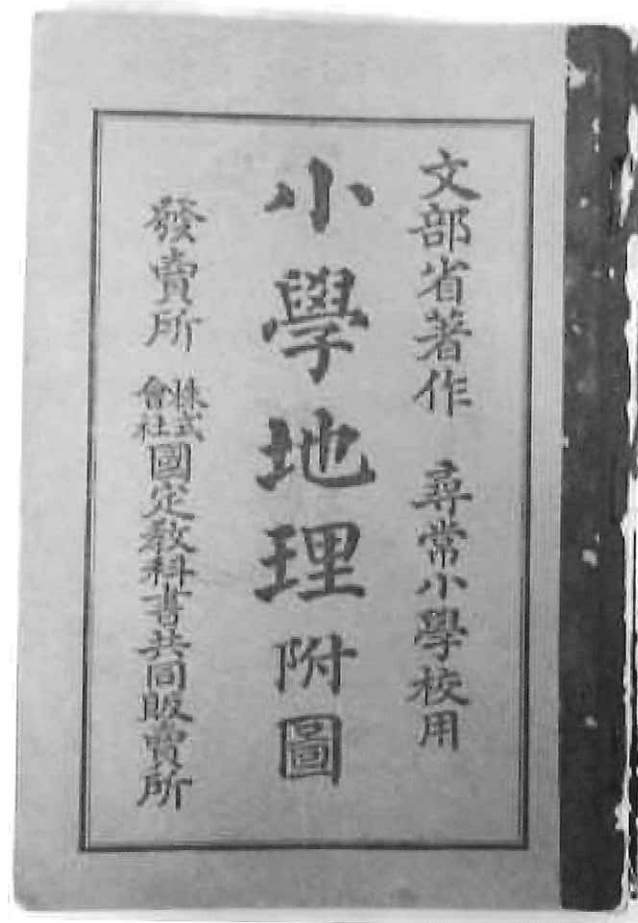
化粧箱

資料番号:H0-22



下駄

資料番号:H0-23



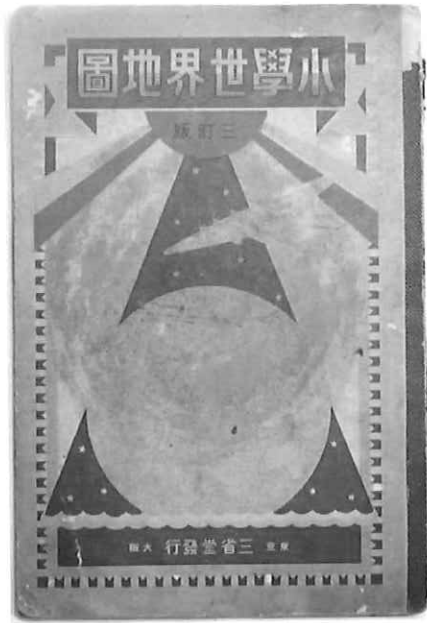
『小學校地理 附圖 尋常小學校用』

資料番号:H4-118

1886(明治 19)年の小学校令・中学校令によって民間で編集された教科書について、文部大臣が検定し、合格したもののみを使用を認める教科書検定制度が始まった。しかし 1902(明治 35)年、小学校で使用する教科書の採用をめぐる贈収賄が摘発されたため、1903(明治 36)年国定制となり、教科書が文部省より発行されるようになった。それを国定教科書という。その後の 1943(昭和 18)年中等学校・師範学校も国定制となったが、1947(昭和 22)年から再び検定制となった。

(参考：文部省 1981 年『学制百年史』)

本資料は、明治 41 年発行の国定教科書である。



『小學世界地圖 三訂版』  
資料番号:H5-146



『初等科算數 三』  
資料番号:H5-147



『小學國語讀本 尋常科用 卷十一』  
資料番号:H5-305



『小學作法 尋常科第五學年』  
資料番号:H5-306

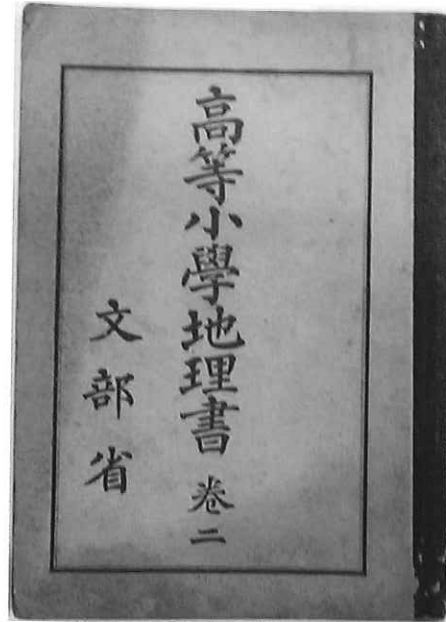




『高等小學讀本 卷二』  
資料番号:H5-300



『高等小學修身書 兒童用 卷二』  
資料番号:H5-295



『高等小學地理書 卷二』  
資料番号:H5-299



寛永通宝

資料番号:H4-12



天保通宝

資料番号:H4-13



乾隆通宝

資料番号:H3-3



半銭

資料番号:H4-84



1 錢銅貨 (龍) 発行年 1885(明治 18)年

資料番号:H4-57



五十錢銀硬貨 (龍) 発行年 1898(明治 31)年

資料番号:H4-121



五十錢銀硬貨 (鳳凰)

資料番号:H4-122



一錢硬貨

資料番号:H5-294



←沖縄国際海洋博覧会記念 100 円硬貨  
発行年 1975(昭和 50)年  
資料番号:H6-202

内閣制度百年記念 500 円硬貨→  
発行年 1985(昭和 60)年  
資料番号:H6-186



←天皇陛下御在位 60 年記念 500 円硬貨  
発行年 1986(昭和 61)年  
資料番号:H6-265

関西国際空港開港記念 500 円硬貨→  
発行年 1994(平成 6)年  
資料番号:H6-263





←アメリカ硬貨

発行年 1976年

資料番号:H6-230

一元洋銀貨→

台湾硬貨 発行年 1971年

資料番号:H6-10



←韓国硬貨

発行年 1972年

資料番号:H6-189

シンガポール硬貨 →

発行年 1979年

資料番号:H6-190



←ベトナム硬貨 (10 ドン)

発行年 1964年

資料番号:H6-11



大日本帝国政府紙幣 前期五拾銭券  
資料番号:H5-377



発行年 1938(昭和 13)年



大日本帝国政府紙幣 後期五拾銭券  
資料番号:H5-378



発行年 1944(昭和 19)年



日本帝国政府紙幣 A五拾銭券  
資料番号:H6-397



発行年 1945(昭和 20)年



拾圓紙幣 (丙拾圓券)  
資料番号:H4-9



日本銀行兌換券

発行年 1930(昭和 5)年



い拾銭券 発行年 1944(昭和19)年  
資料番号:H5-379



A拾銭券 発行年 1947(昭和22)年  
資料番号:H6-398



旧百円紙幣 発行年 1953(昭和28)年  
資料番号:H6-410



旧五百円紙幣 発行年 1969(昭和44)年  
資料番号:H6-409





ドル紙幣 (アメリカ)

資料番号:H6-270



五圓 (台湾)

資料番号:H5-426



伍角 (中国)

資料番号:H6-7



北朝鮮の紙幣 100 ウォン札

資料番号:H6-401



## 切手



改訂加刷（天女航空）

発行年 1959(昭和 34)年

資料番号:H6-269 切手アルバムより

米軍統治下において、それまで使用されていた  
B円表示の切手にドルの額面を加刷した切手



文化財保護強調週間 仲宗根豊見親の墓

発行年 1966(昭和 41)年

資料番号:H6-269 切手アルバムより



宮古・八重山テレビ放送局開局記念

発行年 1967(昭和 42)年

資料番号:H6-102 切手アルバムより



沖縄復帰記念

発行年 1972(昭和 47)年

資料番号:H6-56 切手アルバムより

琉球切手とは、米軍統治下の沖縄で発行された郵便切手のことをいう。正刷切手は 1948（昭和 23）年 7 月 1 日に 7 種が発行されてから、1972（昭和 47）年の本土復帰までに 257 種が発行された。これらを発行目的別に分けると、普通切手 72 種、航空切手 30 種、記念特殊切手 138 種、年賀切手 16 種、速達切手 1 種となる。正刷切手の図案は郷土色豊かな題材が数多くとりあげられ、世界の収集家に人気のある切手である。

（参考：沖縄大百科事典刊行事務局編 1983 年 『沖縄大百科事典 下巻』沖縄タイムス社 p. 863）